

道免和久 監修 竹林 崇 編

行動変容を導く！

上肢機能回復アプローチ

脳卒中上肢麻痺に対する基本戦略

藤原俊之（順天堂大学医学部リハビリテーション医学）

“道免和久先生と竹林崇先生の本！”と聞いて、「これは読まずにはいられない」と思った。道免先生はわが国における神経科学に基づいた、いわゆるニューロリハビリテーションの第一人者であり、わが国にCI療法を導入し、普及させ、さらにその機序について神経科学的手法を導入することで明らかにした。竹林先生はその道免先生のもとで、作業療法士として上肢機能障害に対する治療を行うとともに、研究を重ねてきた。現在の日本を代表するリハビリテーション科医と作業療法士であり、研究者であるといえる。このお二人が監修、編集をされたのが本書である。

本書のコンセプトは従来からあるような治療法のマニュアル本とは異なり、「単に麻痺を回復させる治療法という二元論的理解を超えて、機能障害を課題指向的に改善させ、改善した機能障害を日常生活活動につなげる（転移させる）」という新たなアプローチの考えかたである」と謳っている（「監修の序」より）。

内容を見ていくと、まず「行動変容を導く上肢機能回復アプローチ」と題し、機能と行動を結び付け

て行動変容を促す上肢機能アプローチとしてCI療法を紹介。続いて実際の「麻痺手に対する課題指向型アプローチ」について理論的背景を基に述べている。また、「練習効果を生活に転移させるための方略」では機能回復を行動変容に結び付けるための方略について解説している。一方、本書の後半では実際の症例を通して、具体的に臨床現場においてどのように治療を行っていくのかという点について解説が施されている。

神経科学や行動心理学といった行動変容を導く戦略の根幹となる学問をベースとした上肢機能回復アプローチについて、その学術的背景、基礎知識、実際の治療法を一冊に凝縮した内容となっており、一貫してreasonableな理論からどのように考えて治療するのかというプロセスを明らかにした上で治療法が解説されている。

ニューロリハビリテーションや神経科学に関心の深い医師、コメディカルスタッフ、学生にお薦めの一冊である。

（B5判 頁304 2017年 定価：本体4,000円＋税
[ISBN978-4-260-02414-3] 医学書院刊）